



第 249 回 都市懇サロン レポート	都市懇サロン第 249 回 WEB 「令和元年度 都市計画実務発表会受賞業務について」		
講 師	(株)片平新日本技研 木元 耀大さん 昭和(株) 白石 将生さん	開 催 日	令和 3 年 4 月 13 日(火) 18 : 00 ~ 20 : 00
講 師 プロフィール	<p>[ 木元 耀大 さん PROFILE ] 2019 年 株式会社片平新日本技研 入社 現 在 : 同社 交通都市計画部 技師 Wi-Fi パケットセンサーや ETC データを用いた 分析、駅前広場の計画、交通安全対策の検討な どに従事</p> <p>[ 白石 将生 さん PROFILE ] 2007 年 4 月 昭和株式会社 関西支社入社 現在 : 同社関西開発室 上席主任 主に都市計画、まちづくり計画、エリアマネ ジメントに関する計画策定等支援業務に従事 共著書に「小さな空間から都市をプランニン グする」(2019、学芸出版社)</p>	 (木元さん)   (白石さん)	
お話の概要	<p>①Wi-Fi パケットセンサーを用いた歩行者の回遊行動の調査分析</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上野桜木・谷中地区を対象に Wi-Fi パケットセンサーを 4 地点に設置し、日暮里駅や鶯谷駅から上野公園へのアクセスや回遊行動がどの程度みられるか調査。</li> <li>・結果として、端末の約 80%が「通過」、鶯谷駅に近い場所で周遊時間が他地点より長い、上野公園方面⇄日暮里駅方面の移動の所要時間が長い等がわかった。</li> <li>・今後の展望として、多くのセンサーを設置することで精密な分析・狭いエリアの調査や交通量調査等と組み合わせ詳細な分析を行っていくこと等が考えられる。</li> </ul> <p>②「いこま空き家流通促進プラットフォーム」のコンサルティング力向上と機能拡大に関する支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プラットフォームのコンサルティング力を高め、自立性・持続性を向上させるための方策(参画事業者のスキルアップ・業種間連携等)、空き家利活用希望者を支援する仕組みづくり、取り組みを支援する生駒市の広報機能の強化(パンフレットの作成等)に関する支援を行った。</li> <li>・今後は、都市全体を対象とするスケールメリットを活かした空き家対策が重要。 (a) 多分野連携による個別の空き家流通促進、並びにその発展系である (b) 多分野連携のサブリース等による活用・(c) ランドバンク事業等の推進体制、を構築し、地域特性に応じた空き家解消を図っていくことが期待される。</li> </ul>		
意見交換の概要	<p>①GPS データではなく Wi-Fi パケットセンサー活用した理由・メリットは。 ⇒狭い範囲でデータを取得できるという点と、GPS 等のビッグデータと比べコストが安い、センサーがあればどの場所でも活用できるという点。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・センサーの間隔を狭めて配置することで歩行者の流動解析等に活用できないか。</li> </ul> <p>⇒活用可能性はあるが、近すぎると別のセンサーが感知してしまうリスクもある。</p> <p>②2020 年 5 月時点の登録物件 61 件とあるが、今後登録数を増やす目標はあるのか。 ⇒定量的な目標はないが、活用希望者に提供するため登録数を増やしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登録事業者は十分な仕事をもらえているのか。</li> </ul> <p>⇒宅建士は十分な仕事があるが、建築士・司法書士等は十分とは言えない。建築士には設計で活躍できる場等の提供が必要。また、業者の登録数が 51 者に対して物件の登録数が少ないので増やしていく必要がある。</p>		
記録者のひとこと	<p>Wi-Fi パケットセンサーという少ない人員で多くのデータを集めるという新技術の活用と、空き家流通促進のプラットフォームという地域の多様な主体が関わり取組むという対称的な進め方の事例をご紹介いただいたが、今後のまちづくりを考える上では、双方の視点を踏まえ最適な方法論を構築することが必要であると改めて認識した。      ≪都市懇サロン運営部会 委員 森川 禎二郎≫</p>		